

GEKKAN GIJUTSUKAIGI

月刊 技術会議

www.s.affrc.go.jp/

農林水産省 農林水産技術会議

2006年

3月号

No. 58



第1回若手農林水産研究者表彰式（3頁参照）

巻頭言 技術開発の新しい地平について

農林水産技術会議事務局長 村上 秀徳 < P 2 >

**研究開発
施策の動向**

B T 戦略会議の開催 < P 3 >

第1回若手農林水産研究者表彰 < P 3 >

全国農業・畜産・食品関係試験研究場所長との懇談会 < P 6 >

催事の開催

21世紀の農林水産技術を展望するシンポジウム
「担い手の経営発展を支援する研究開発」のご案内 < P 7 >

技術開発の新しい地平について

農林水産技術会議事務局長 村上 秀徳



1月6日付で農林水産技術会議事務局長を拝命しました。よろしくお願ひ致します。就任直後ですが、現在、技術開発について大まかに考えていることを述べたいと思います。

日本の農業は、国際化の進展の中で、その競争力の強化が求められており、食品産業も海外からの競争にさらされ、生き残りの為大変な努力を強いられている状況にあります。

WTO交渉が、本年中の交渉妥結を目指して正に正念場を迎えつつあり、EPA交渉もシンガポール、メキシコに続いて、アセアン諸国等との交渉が進展しつつあります。

国境措置は年々低くなっていく方向にあり、日本農業の構造改革もかなりペースを挙げて取り組まなければ、追いつけない状況になっております。食品産業も製品、半製品の輸入増加にさらされており、その傾向は、更に加速すると考えなければなりません。

そういう中で、我が省としては、昨年の3月の食料・農業・農村基本計画、それに基づく経営所得安定対策等大綱により、19年度から品目横断的経営安定対策を導入し、担い手に施策を集中して、国内

農業の構造改革を進めることとしていることは御承知のとおりです。

農業政策面のこのような取り組みと併せて、日本の農業、食品産業の競争力を高める上で、技術がカギになることは言うまでもありません。農業生産においては、そのコスト削減の技術開発と併せて付加価値が高く、安全で特徴のある商品の開発の面での技術の出番が期待されます。

また、食品産業と農業の連携の強化、ブランドの育成、新製品の開発が重要であり、その中で技術が大きな役割を果たしていくことが求められています。

明治以降、日本の経済発展のために、農業の発展、そしてその中で技術の果たした役割は、よく知られているところですが、我々は、今わが国の農業や食品産業が置かれている状況を踏まえ、進展するボーダレス化をにらみながら、それをチャンスととらえ、技術開発の地平が大きく広がっていることを自覚する必要があると思います。

そしてこのような技術の地平は、日本の国境内にとどまらないこともよく自覚する必要があると思います。



JICA「アフガニスタン国国立農業試験場再建計画プロジェクト」のカウンターパートとして、アフガニスタンからモハマト・シャリフ農業牧畜食料省副大臣およびモハマト・オスマンザイ農業牧畜食料省農業試験局局长が視察のために来日され、2月1日(水)

に丸山研究総務官を表敬訪問されました。丸山研究総務官は、副大臣一行の訪問を歓迎するとともに、農業試験研究の円滑な推進に必要な組織等の要素、農林水産技術会議事務局の役割とその歩みについて述べました。副大臣からは、アフガニスタン国内の農業分野の復興のためには、農業試験研究管理の体制作りが早急に求められており、日本の農業研究体制は良い参考になると思うので、詳細を学ぶのは勿論、日本からの助言を戴きたいとのご発言がありました。表敬訪問の後、柳原国際研究課課長補佐が、「農林水産省における農業試験研究体制」について説明しました。



右から丸山研究総務官、モハマト・シャリフ副大臣、モハマト・オスマンザイ局長

研究開発施策の動向

B T 戦略会議の開催

近年、バイオテクノロジー（B T）の目覚ましい成果を実用化・産業化し、国民生活の向上と産業競争力の強化を図ることの重要性が高まっています。このため、我が国としてB T戦略を早急に樹立し、その推進を図っていくことを目的として、平成14年7月5日に、「B T戦略会議」が設置されました。

当会議は、内閣総理大臣、内閣官房長官、科学技術政策担当大臣、農林水産大臣のほか、関係閣僚及び有識者により構成されています。平成14年12月には、「研究開発の圧倒的充実」、「産業化プロセスの抜本的強化」、「国民理解の徹底的浸透」の三つの戦略を内容とする「バイオテクノロジー戦略大綱」を策定し、その後、毎年1回、本大綱の進捗状況に

ついでの報告などが行われています。

本年度については、1月26日（木）首相官邸において、「第8回B T戦略会議」が開催され、関係閣僚による本大綱の進捗状況の報告や研究成果に関する展示品の紹介、有識者との意見交換、研究者による最新の研究成果のプレゼンテーションが行われました。

農林水産省からは三浦副大臣が出席され、農林水産省におけるバイオテクノロジー研究の成果の一つとして、実際に活用されているDNAによる米の品種判別キットを提示し、御報告いただきました。

(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/bt/>)

（技術政策課） ■

第1回若手農林水産研究者表彰

第1回の若手農林水産研究者表彰式が2月2日に虎ノ門パストラルで行われました。

この表彰は、農林水産業及び関連産業の研究開発に携わる若手研究者の一層の意欲向上に資するため、優れた功績をあげた若手研究者、又は将来の技術革新等につながる優れた研究業績をあげた若手研究者を、農林水産技術会議会長が表彰するものです。

対象は40歳未満の個人で、毎年度3名以内を表彰いたします。

本年は、第1回目にも関わらず、独立行政法人、大学、都道府県、民間等から54名（うち女性7名）の応募がありました。平均年齢は36.7歳で、最も若い応募者は27歳でした。

選考については、（社）農林水産先端技術産業振興センターの岩元睦夫理事長を委員長とする選考委員会において厳正な審査を行い、牧野知之、矢野裕之、吉崎悟朗の3名を受賞者として決定しました（次

頁参照）。

表彰式では、農林水産技術会議の甕滋会長から表彰状が授与されるとともに、若手研究者の育成に強い思いを抱かれている篤志家からの寄付に基づく奨励金が（社）農林水産技術情報協会の亀若誠理事長から、授与されました。また、総合科学技術会議の岸本忠三議員から、若手研究者への期待を込めた祝辞をいただきました。

その後の受賞講演では、各受賞者から成果の内容について、将来の展開方向を含めた具体的な発表がありました。

詳細については、技術会議ホームページの報道発表 (<http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/2006/0124.htm>) をご参照ください。

受賞者概要

【業績名】 土壤洗浄法によるカドミウム汚染水田の修復技術に関する研究

【受賞者】 牧野 知之 ((独) 農業環境技術研究所)、39 歳

【受賞のポイント】

本研究業績は、土壤からのカドミウム溶出メカニズムを解明し、カドミウム汚染土壤の化学的洗浄処理による新たな修復技術を開発したものであり、基礎から応用まで一貫した研究に取り組んでいる点で評価できる。本成果は、これまで客土しかなかったカドミウム汚染水田の修復において、普及性の高い実用的な手法としての活用が期待される。



牧野 知之 氏



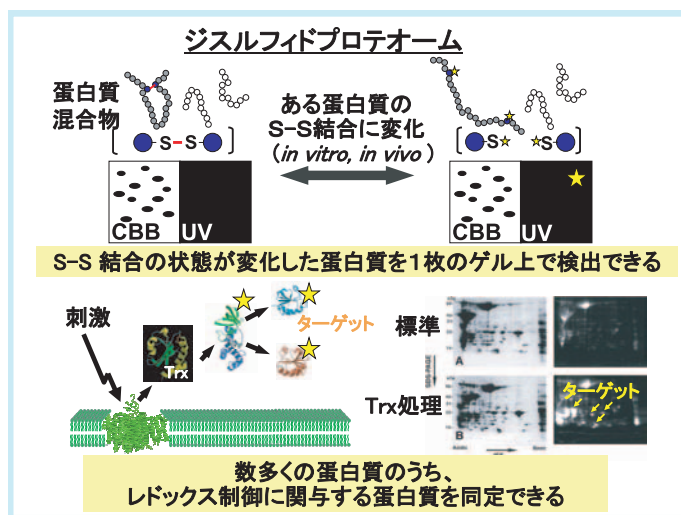
有り難うございます。私がもらっているのか、とビックリしました。この研究は、多くの共同研究者と一緒に進めたものです。この課題に着手した当時、カドミウムの除去などには、生分解性のキレート資材を使うことが世界的なトレンドだったのですが、価格の問題や資材自体の環境負荷の問題もありました。以前、マンガン酸化物の研究をしていた経験から、今回の塩化第二鉄による洗浄のアイデアが生まれた訳で、昔の蓄積が活かしたという意味でも、とても嬉しいです。3～5年後には問題となっている水田で、その解決に活用されているように仕上げたいですね。

【業績名】 新しい網羅的タンパク質解析手法の開発とアレルギー検出技術への応用に関する研究

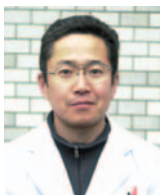
【受賞者】 矢野 裕之 ((独) 農業・生物系特定産業技術研究機構 作物研究所)、39 歳

【受賞のポイント】

本研究業績は、タンパク質の架橋結合（ジスルフィド結合）の網羅的かつ迅速な解析手法を新たに開発するとともに、本手法を新たなアレルギー検出技術の開発等に応用し、その有効性を実証した点で評価できる。また、本成果は、低アレルギー作物・食品の開発を目指した共同研究に発展するなど、農業・食品産業での活用が期待される。



矢野 裕之 氏



私は薬学系の大学出身で、民間の化粧品関連企業から転職して参りましたので、農業分野で評価を頂いたことは非常に光栄に存じます。入省以来、ご指導を頂いた作物研究所の黒田所長に感謝いたします。

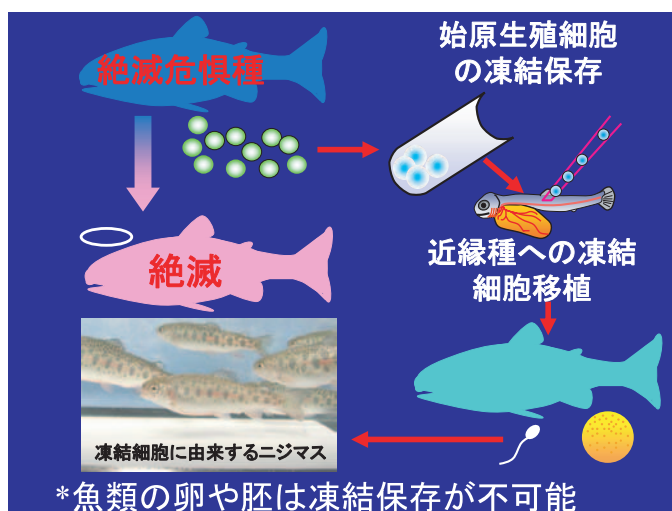
今回の研究は、作物の種子発芽などの研究蓄積を生理機構の解明やアレルギーの検出技術の開発に発展させたものです。今後も、基盤研究の効率的な実用化・社会還元を目指して研鑽に励む所存です。

【業績名】 生殖細胞の異種間移植を利用した魚類養殖法に関する研究

【受賞者】 吉崎 悟朗 (国立大学法人 東京海洋大学)、39 歳

【受賞のポイント】

本研究業績は、魚類の始原生殖細胞を単離し、異種間移植によって卵や精子を生産する技術を開発したものであり、新たな魚類養殖法である代理親魚養殖への道を拓いた点で評価できる。また、始原生殖細胞の単離・凍結保存技術の確立により、卵の凍結保存が困難な魚類について、遺伝資源保存への応用が期待される。



吉崎 悟朗 氏



率直に嬉しいです。私たちの仕事は、魚を長期間飼いつけるというある意味地味な仕事の積み重ねの上に成り立っているもので、それを評価して頂いたことは、光栄です。

私たちは、生きた魚を飼って、それを見続けて来ました。最近、研究が細分化されて、組織や遺伝子しか見ないような研究も多いですが、水産でも農学でも、基本的な対象は個体だと思います。

今回、賞を頂いた研究のアイデアも個体を見続けた成果だと思っています。さらに研究を発展させますので、ご期待下さい。

(研究開発企画官室)

全国農業・畜産・食品関係試験研究場所長との懇談会

平成18年2月8日、「全国農業・畜産・食品関係試験研究場所長会との懇談会」が開催されました。

地域の農林水産業・食品産業の活性化や地域科学技術の振興への期待が高まる中、本懇談会は、都道府県の農業・畜産業・食品産業関係の試験研究機関と独立行政法人及び農林水産省関係部局、農林水産技術会議事務局の関係者が一同に集まり、意見交換を行うため、毎年開催しているものです。

今回は、技術会議事務局より主要情勢、経営局より普及の今後の組織等のあり方についての情勢報告がされた後、「独法（地域農研）と公立試験研究機関、普及の今後の組織等のあり方」、「競争的研究資金の活用等による連携強化方策」の二つのテーマについて各場所長会からの報告、提案があり、それについての質疑応答を中心に意見交換が行われました。

意見交換では、普及組織の見直しが進むなかでの、独法・公立場所・普及の体制はどうあるべきか、担

い手中心の施策に向けた研究・普及組織のあり方、高度化事業を始めとする農林水産省の競争的研究資金のあり方について等、実りある議論が活発に交わされ、有意義な懇談会となりました。

（地域研究課） ■



懇談会会場

催事の開催

「担い手の経営発展を支援する研究開発」シンポジウムのご案内

現在の農政改革の方向の中で、担い手の経営発展を支援する新技術の開発が重要となっています。このことを踏まえ、本シンポジウムでは、まず東京大学の八木宏典教授の「21世紀日本の農政改革の方向と経営政策」の基調講演を行います。引き続き、農業生産現場で役立つ技術開発の成果として、冷めても粘りがある低アミロース米や低タンパク米、巨大杯米、飼料稲などの稲新品種の開発状況や営農リスクを考慮し、農業経営の合理的・効率的な意志決

定を支援するコンピュータソフトの開発状況、不耕起栽培を取り入れた稲・麦・大豆の省力・高位安定生産型の輪作体系、水田の高度利用を可能にする地下灌漑システム「FOEAS」の開発状況を紹介します。また、講演者を中心としたパネリストによるディスカッションより経営発展に資する研究開発の方向を展望します。

（日程、プログラム等は次頁参照）

21世紀の農林水産技術を展望するシンポジウム

担い手の経営発展を 支援する研究開発

参加費無料

平成18年3月15日(水)13:00～17:00

会場：JAホール（千代田区大手町1-8-3 JAビル9F）

主催：農林水産省農林水産技術会議事務局



I. 開会

13:00～13:10

挨拶

農林水産技術会議事務局長
村上 秀徳

II. 基調講演

13:10～13:50

「21世紀日本の農政改革の
方向と経営政策」東京大学大学院教授
八木 宏典

III. 講演

13:50～14:20

「新しい稲を創る
—売れる米から飼料稲まで—」(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構
作物研究所稲研究部長
井辺 時雄14:20～14:50 「経営発展を支援する営農
技術体系評価・計画システム」(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農業総合研究センター
農業情報研究部
生産支援システム開発チーム長
南石 晃明15:00～15:30 「新たな水田輪作営農体系の
構築と担い手」(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農業総合研究センター
関東東海総合研究部
総合研究第1チーム長 梅本 雅15:30～16:00 「経営を支援するための
これからの圃場整備」(独) 農業工学研究所
農地整備部水田整備研究室長
藤森 新作

IV. パネルディスカッション：16:10～17:00

参加申込み・ お問い合わせ先

参加ご希望の方は、氏名・所属・連絡先をお書き添えの上、メールまたは
FAXにてお申し込みください。E-mail：koho@s.affrc.go.jp FAX：03-3507-8794
お問い合わせ：農林水産省農林水産技術会議 (TEL：03-3501-9886)/<http://www.s.affrc.go.jp/>

【会場へのアクセス】

(1) 東京メトロ

丸ノ内線・半蔵門線・千代田線（大手町駅）
A1・A3出口徒歩0分，C1出口徒歩約2分
東西線（大手町駅）：徒歩約5分

(2) 都営地下鉄

三田線（大手町駅）：徒歩約5分

(3) JR 東京駅丸の内北口より徒歩約10分

※参加申込み時にご記入いただいた個人情報は、
本シンポジウムを円滑に実施するためにのみ使用します。



Information お知らせ

イベント情報

[農林水産省]

第 109 回農林交流センターワークショップ (第 53 回食品総合研究所食品技術講習会)
 「遺伝子組換え体の検知技術－講義と実習－ ～農産物・食品からの定性・定量的検知法～」
 期日：3月14日～16日
 場所：農林交流センター、食品総合研究所 (茨城県つくば市)
 URL：http://ss.cc.affrc.go.jp/tbh/news20/387.html

日韓共同国際ワークショップ
 「農業生態系における窒素負荷と河川・地下水への流出：モニタリングとモデルによる解析」
 期日：3月15日
 場所：つくば国際会議場 (茨城県つくば市)
 URL：http://www.niaes.affrc.go.jp/magazine/068/mgz06803.html

[独立行政法人等研究機関]

「生物機能を活用した病害虫防除新技術の開発から IPM 普及へ」の講演会 (中央農研)
 期日：平成 18 年 3 月 8 日 (水) 10:00～16:30
 場所：東京都北区西ヶ原 1-23-3 滝野川会館大ホール
 URL：http://narc.naro.affrc.go.jp/chousei/shiryou/press/kanky0/20064.htm

記者発表

発表年月日	発表事項名	担当課
18. 2. 6	「生物多様性影響評価検討会総合検討会」の開催及び傍聴について	技術安全課
18. 2. 13	平成 17 年度先端技術を活用した農林水産研究高度化事業の新規採択課題の決定について	地域研究課
18. 2. 17	クローン牛の異動報告のとりまとめについて	技術安全課

今後の予定

年月日	行事名	開催場所	担当課
18. 3. 8-9	行政・研究マッチングフォーラム	農林水産省講堂	技術政策課
18. 3. 15	21 世紀の農林水産技術を展望するシンポジウム	J A ホール	技術情報室

月刊 技術会議 No.58 平成 18 年 2 月 28 日
 編集・発行 農林水産省農林水産技術会議事務局 技術政策課 技術情報室
 〒 100-8950 東京都千代田区霞が関 1 - 2 - 1
 TEL : 03-3501-9886 e-mail : koho@s.affrc.go.jp
 農林水産技術会議事務局ホームページ http://www.s.affrc.go.jp/